

*題名中に書名が出現する場合は、引用符「」で囲みイタリック体を使用しない。

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は字句の訂正に留め、組版面積に影響を与えるような改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り五印刷ページ（四〇〇字詰原稿用紙で一二枚）までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷第一頁の上方に部数を朱書すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

▼また学会の季節がめぐってきた。今年には谷津三雄会長のもと、日本医史学会と日本歯科医史学会の合同の総会でもあり、会長のお人柄も反映して、一段と晴れやかな、にぎにぎしい総会がひらかれるものと楽しみにしている。六八題という近年にない数の演題が提出され、本号にはその抄録を掲載することができた。▼ワープロによる投稿がふえたとはいえ編集には意外に手間どって、本号が会員の皆様のお手許にとどくのが予定よりかなり延引して、総会を旬日にひかえた今日となってしまったことをおわびしなくてはならない。抄録号は著者校正をおこなわず、編集委員が手わけして校正しているの、総会の席上で誤植のご指摘がどのくらいの数にのぼるか、実は内心総会の席へつらなるのがおそろしい程である。▼とはいえ平素お目にかかる機会のすくない会員の諸先生と久闊を叙し、学問上の意見を交換することのできる総会は、学問の進歩に欠くことのできない研鑽の場であるとともに、友情をあたためて明日への活力をやしなう場でもある。合同総会ということで、その運営には思わぬご苦労があるものと思われるが、通常の総会ではあじわえない隣接領域の方々との学問的交流をおおいにはかかっていただくことを期待している。▼この総会で発表された演題が口頭発表におわることなく、さらに肉づけされ、骨太に育って、原著や研究ノートとしてふたたびこの会誌に登場する日の一日も早いことを、編集委員の一人として心から願っている。

(深瀬 泰旦)